

事例 17

子育てと地域づくりに「おやし」のパワーを

活動地域（兵庫県姫路市）

男性のプロフィール

氏名：黒田 賢治さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：PTA活動に取り組んできた父親たちが「網干おやし塾」を結成し、その任期を終えた後も父親同士でつながり、様々な地域活動を展開している。

活動開始のきっかけ

PTA活動をきっかけに、おやじたちとの幅広い地域活動へと展開

母子家庭に育ち、小・中学校時代に転校を繰り返した思い出を持つ私の心底にはあったのは、自分に子どもができた時にはひとつの場所に根を下ろし、その地域に溶け込んで楽しく暮らしたいということでした。

家庭を持ち、一人息子が幼稚園に入園した時、「父の会」があることを知った私は、迷わずお手伝いすることに決めました。その時に知り合ったお父さんたちとの触れ合いは、仕事も年齢も違う父親たちが、子どもを中心に、楽しくボランティア活動を行い、終わったら打ち上げで盃を交わす、といった具合で、仕事やそれまでの交友関係とはまた異なり、新鮮で、衝撃的でした。

息子が小学2年になった時、PTA役員に誘われた際も、迷わず飛び込みました。網干地区は祭りで男性のつながりも強く、PTA役員も半数が男性、さらに姫路市教育委員会が「父親教室」事業を実施していたことなどがベースにあり、参加しやすい環境でもありました。そして息子が5年生の年にPTA会長を引き受け、夏休みに「父親教室」初の試み、グランドキャンプ（学校を利用した親子キャンプ）を同僚の男性役員と企画しました。これには校長先生の協力、理解が大きな支えになりました。

「おやしTシャツ」なるものを作って盛り上がっていくうち、次第に、PTAという枠に縛られずに活動すべきテーマがあるのではないかと、この思いが、仲間の中で広がっていきました。

多くの「おやし」たちと、色々なことを地域で取り組んでいけたら楽しいだろうと思ったのです。「おやし塾」設立段階での想いのひとつ、「父親が自ら楽しみ、仕事以外での楽しそうな笑顔、頑張っている姿、助け合う姿を子どもに示し、父親の魅力・活力のアップを目指す」を実践したいという大義名分と、楽しいお酒を飲みたいという本音がドッキングして、「網干おやし塾」が誕生しました。

活動の内容

自由に、機動的、多くのおやじたちが地域で取り組んでいけたら、きっと面白い

「網干おやし塾」は、網干小学校PTA「父親教室」の活動を通して、「もっと自由に、もっと機動的に、もっと日常的に、もっと色々なことを、もっと多くのおやじたちと、より広く地域の中で、永続的に取り組んでいけたら、きっと面白い！」を実現するものです。子どもたちとの忍者遊びやそば打ち教室、ペタンク、地域の各種イベント支援、児童センター支援等々さまざまなことに挑戦し、みんなで作り上げています。

◇これまでの主な対外的取り組み◇

- | | |
|--------------|--------------------------|
| 平成 18 年 6 月 | 設立記念懇親会 |
| 平成 20 年 11 月 | ひょうごおやしネットワーク設立に参加 |
| 平成 21 年 1 月 | 姫路おやしネットワーク設立 |
| 平成 21 年 10 月 | 知事さわやかトーク |
| 平成 23 年 2 月 | 第 8 回全国おやしサミット in ひょうご開催 |
| 平成 24 年 1 月 | 第 4 回姫路おやしサミット開催 |

キーワードは「おやじの背中」

おやじ活動のやりがいは、何よりも「おやじ」としての地域での居場所がしっかりできたこと。仕事でのつながりではなくて、日々暮らす自分たちの地域でのつながりがしっかり広がっていきえることを実感したことです。それはPTAでも自治会でもない自由な立場で、それでいて自分の子どもはもとより地域の子どものことをしっかり考えたり、その子どもたちの未来につながる地域の将来について、あり方についての思いを馳せながら色々な議論を交わし、今の自分たちにできることを楽しみながら実践に移していく。「おやじの背中」というキーワードでいろんな夢が広がります。

周囲との関わり

家族の理解と、地域の連携・情報共有が重要

平成18年の発足当初、PTAのお母さん役員たちが理解してくれたことがありがたかったです。そして、家族が温かく見守ってくれました。「最近お父さん、なにやら楽しそう」という感じです。地域のこととなると母親任せの感がある「おやじ」が何やら地域に出て楽しそうにやっている。そんな「おやじの背中」は母親たちにとっても新鮮だったと思います。

自分の子どもに良い環境を整えたいという思いを実現するには、自分の家だけが良くてだめで、自分たちの地域だけが良くてだめで、結局、地域同士の連携、情報共有が重要だということを感じました。そこで、「おやじのネットワーク」をつくらう、いつかは「全国おやじサミット」を兵庫県で開催しようという思いが芽生えたのです。本当に無謀な話です。

ところが、おやじ塾のブログを見た兵庫県男女家庭室から声がかかり、父親の家庭・地域参加というテーマの施策と、私たちの考えが一致したことから、連携することになりました。知事との対談にも参加させていただき、市教育委員会の支援も得て、平成21年1月、「姫路おやじネットワーク」が立ち上げられました。こうして、既存の市内の父親教室をゆるやかにつなぐネットワークを構築することができました。

直面した課題と解決方法

できることを、できる時に、できる人がやる、を基本に

塾としても、個人としても、できることをできる時に、できる人がやる、ということの基本にしたので、きつかったと感じたことはありませんでした。この塾は、まず、おやじ本位、そして時々、子どもたちや地域のために、というスタンスでしたから、楽しくないはずがありません。

唯一、「全国おやじサミット in ひょうご」の実行委員会を運営した時は、多額の開催費用を管理し、緊張もしました。しかし、県やおやじ仲間の協力、助成団体の支援を得て、無事、開催できました。

これからの展望

全国のおやじがつながり、助け合うことが大事

「網干おやじ塾」は、まだ誕生して日の浅い組織ですが、偶然の出会いから、市、県、全国のおやじ仲間とつながっていくことができました。私自身、対外的な仕事を担当し、多くのつながりができたことをありがたく思っています。仕事や家庭の中だけの感覚とは違った世界が目の前に現れ、人前で何かを表現することのすばらしさ、大切さを理解させてくれました。

しかし、塾の中にも色々な「おやじ」がいて、子どもと接することを一番の喜びとする人だけでなく、外に出ていくことが苦手な人、あるいは子どもは苦手という人も。塾の活動ポリシーの一つに「参加の強要をしない」を掲げており、そうすることでその人なりに活動に入ることができていることは確かです。

それぞれの地域で、色々なキーワードで、つながりが一番大事であることを理解する「おやじ」が増えていることが効果のひとつだと思います。全国サミットをやり遂げて、今、大事にしたいと思っていることは、改めて地域の中で自分たちがやりたいことを見つめ直し、それを実現し、充実すること。今が発足当時と違うのは、全国の「おやじ」がつながり、いつでも助け合えるということです。